

❀ 奈文研の一員としての9年間

平城遷都1300年の前年。2009年10月に、私は奈良文化財研究所に赴任しました。中途採用ということもあって新人挨拶の場は無く、いつの間にか奈文研にいたと思われたことでしょう。

私個人的には奈良時代が大好きでしたので、平城宮の隣で仕事が出来るのが嬉しくもあり、不安でもありました。嬉しいというのは、奈文研の一員となって奈良時代の生の遺物に出会える機会があるであろうこと。実際に多数の生の遺物を見せていただきました。不安というのは、私が着任した当時の係名称が「図書・情報係」で、着任するまで「・」の意味が分かりませんでした。図書の情報に関する業務と勝手に理解していたのですが、図書とは無関係の本当のネットワーク業務だということに驚き、先行きが不安でいっぱいでした。情報に関する言葉も意味も理解できず、通勤時に吐き気をもよおしながら、前任者やネットワーク業者に恥も外聞も無く聞きまくる毎日を過ごし、ようやく奈文研のネットワーク構成を頭にたたき込みました。図書の仕事は係の人たちの方が上司でしたので、ことなきを得てきました。

奈文研では、大学図書館では味わうことのできない人との和、歴史の発掘に触れられたことに感謝です。

(研究支援推進部 渡 勝弥)



森本部長・渡補佐・松本補佐(左から)